

衆議院外務委員会ニュース

【第198回国会】令和元年6月5日（水）、第11回の委員会が開かれました。

1 国際情勢に関する件

- ・河野外務大臣、田中内閣府副大臣、原田防衛副大臣及び政府参考人に対し質疑を行いました。
（質疑者）木原誠二君（自民）、遠山清彦君（公明）、山川百合子君（立憲）、櫻井周君（立憲）、緑川貴士君（国民）、小熊慎司君（国民）、穀田恵二君（共産）、杉本和巳君（維新）、玄葉光一郎君（社保）、井上一徳君（希望）

（質疑者及び主な質疑事項）

木原誠二君（自民）

- （1） トランプ米国大統領訪日（2019年5月25～28日）
 - ア 日米首脳会談（同月27日）の成果に対する河野外務大臣の見解
 - イ トランプ大統領から日朝首脳会談の開催に対する支持を得たことを受けて、同会談の開催や拉致問題解決に向けた今後のプロセスについての河野外務大臣の認識
- （2） 我が国の対アフリカ外交
 - ア 我が国の外交政策におけるアフリカの位置付け及び今後の外交方針
 - イ 中国がアフリカに対する影響力を強める中、アフリカとの関係強化に向けた我が国の今後の対処方針
- （3） G20大阪サミット（2019年6月28～29日予定）において我が国が環境問題に関する議論でリーダーシップをとり、今後、環境問題で日本の存在感を発揮していくことについての河野外務大臣の所見

遠山清彦君（公明）

- （1） ウクライナについて、日本との地理関係及び特定分野における高い技術に着目して、戦略的に関係を強化すべきであるという考えに対する河野外務大臣の見解
- （2） 2016年のロシアによるクリミア併合後においても我が国が日露外務・防衛閣僚協議（2+2）を継続する意義
- （3） 民間団体が実施しているグローバルな経営者を育成する事業について外務省としても支援していくべきであるという考えに対する河野外務大臣の見解

山川百合子君（立憲）

- （1） 日米貿易交渉
 - ア 交渉の合意時期に関する日米首脳会談等での議論の有無及び日米両国政府の認識
 - イ 米国大統領選挙のスケジュールが交渉のスケジュールに与える影響
 - ウ 昨年9月の日米共同声明で「農林水産物について、過去の経済連携協定で約束した市場アクセスの譲許内容が最大限である」とされている「最大限」とは、具体的にはTPPの水準を指していることと我が国が認識していることに対する米国政府の理解の有無
 - エ 米国のTPPへの復帰の可能性及び復帰しないと判断される具体例等に対する我が国政府の見解
 - オ 今後の日米貿易交渉に向けた我が国の方針
- （2） 北朝鮮問題
 - ア 2019年5月に北朝鮮により発射された「飛翔体」が短距離弾道ミサイルであり、国連安保理決議に違反することについての日米両国政府の認識
 - イ 国連安保理決議に違反する短距離弾道ミサイルの発射について、我が国が国連あるいは国際社会

- に働き掛ける予定の有無
 - ウ 条件を付けずに日朝首脳会談に臨むことのリスクについての河野外務大臣の認識
 - エ 北朝鮮問題に対する方針として「力による平和」という考え方が日米両国政府間で共有されている事実の有無
- (3) 安倍総理のイラン訪問計画が報じられている中、米・イラン関係の緊張緩和及びイラン核開発問題の解決に向けた我が国としての方針

櫻井周君（立憲）

- (1) 香港の「逃亡犯条例」改正
- ア 安倍政権の掲げる価値観外交の内容
 - イ 香港で「逃亡犯条例」の改正が進められていることに対し、価値観外交を掲げる我が国として何らかの形で声を上げていくべきとの考えに対する河野外務大臣の所見
 - ウ 「逃亡犯条例」の改正によって香港に居づらくなって出国する民主化運動の活動家等を我が国が受け入れる可能性
 - エ 中国の国家資本主義の膨張に対する我が国の対策
- (2) 北朝鮮（拉致問題）
- ア 我が国が北朝鮮との対話に臨むにあたっての外交方針を圧力から対話へ 180 度転換した理由
 - イ 我が国が北朝鮮との対話に臨むにあたって条件をつけないことで外交交渉のカードを相手に渡してしまったような状態になったとの指摘に対する河野外務大臣の所見
- (3) 日米貿易交渉
- ア 米国の T P P 復帰はないという前提で交渉を進めていくべきとの考えに対する政府の見解
 - イ 米国との貿易交渉がまとまった場合、T P P の再交渉をせず、農林水産分野で米国分が二重計上される可能性

緑川貴士君（国民）

- (1) 日露関係
- ア 日露外務・防衛閣僚協議（「2 + 2」）（2019 年 5 月 30 日）では、「プロジェクトの実施に向けて、双方が柔軟性を発揮し、建設的に作業を進めていくことを確認した」とのことだが、ロシアによる北方領土での軍備強化や我が国のイージス・アショアの配備計画について両国が接点を見出せたとはいえない状況の中で我が国が発揮していく「柔軟性」の内容
 - イ イージス・アショアの配備計画が北方領土問題の解決を図る上での障壁になっているとの指摘に対する河野外務大臣の見解
- (2) 平昌オリンピック・フィギュアスケート女子の金メダリストであるロシアのアリーナ・ザギトワ選手に贈られた秋田犬「マサル」
- ア 日本古来の犬種である秋田犬が日本文化の一端を伝えることで海外との友好のかけ橋の役割を担っていることについての河野外務大臣の所感
 - イ ザギトワ選手がマサルと共に来日する計画について外務省で検討している事項及び来日に向けての河野外務大臣の意気込み
 - ウ ペットであるマサルが我が国に持ち込まれる際に求められる検疫等の諸手続の準備状況
 - エ 現在国内で狂犬病の予防接種を受けている飼い犬の割合
 - オ 国内での狂犬病感染のリスクに対する政府の現状認識及び我が国の狂犬病対策
 - カ ペットフード協会の調査によると市区町村への登録がされていない犬が推計で約 370 万頭おり、これにより狂犬病の予防接種の接種率が低くなっていることに対する政府の対応策

小熊慎司君（国民）

- (1) インバウンド・アウトバウンドの拡大
 - ア 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた査証（ビザ）の緩和についての政府の考え方
 - イ 中長期的なビザの緩和についての政府の考え方及び対応状況
 - ウ 在外邦人数の増加、邦人保護業務の多様化に対する在外公館をはじめとする外務省の対応状況
- (2) 査証業務の体制強化
 - ア 査証（ビザ）発給件数が飛躍的に増加していることを受けて人員の増加を図ることについての外務省の見解
 - イ 在留資格認定書の審査についての法務省の取組
 - ウ 悪質な語学学校のリスト化等についての法務省の対応状況
- (3) 「デジタル・プラットフォーマー」への規制及び「デジタル課税」に関する国際的議論
 - ア 「デジタル・プラットフォーマー」への規制等についての我が国の方針
 - イ ダボス会議において安倍総理が世界的なデータガバナンスに関する基本的なコンセプトとして提唱した「Data Free Flow with Trust」と「デジタル・プラットフォーマー」への規制との両立のための方策についての政府の見解
 - ウ 「デジタル課税」に対する政府の取組方針

穀田恵二君（共産）

- (1) 陸上自衛隊が参加した海外での共同訓練に関する日報問題
 - ア 防衛省が既に日報の保有を認めている3つの共同訓練以外に、5月17日に、行政文書開示請求に対する開示決定通知書において同省が日報の存在を明らかにした共同訓練の件数
 - イ 防衛省が日報の存在について調査中と答弁していた2017年度に米国で行われた米陸軍との共同訓練（アークティック・オーロラ）に関する日報は、5月17日の開示決定通知書において存在が明らかになった日報に含まれているか否か
 - ウ 防衛省が昨年5月から11月の間に行った共同訓練の日報の保有状況についての調査に際して、意図的な隠蔽が行われた可能性
- (2) 陸上配備型イージス・システム（イージス・アショア）の配備候補地の選定
 - ア 安倍政権の言う日米のきずなどは、米国から高額な装備品を調達するという関係のことだとの見方に対する政府の見解
 - イ 配備候補地の住民の配備への理解に関する政府の認識
 - ウ 私の資料請求に対して防衛省が提出した2018年5月の統合機動防衛力構築委員会で配付された配備候補地に係る資料について、記載内容の一部にいわゆる黒塗りを施して提出した理由
 - エ 公にすることにより不当に国民の間に混乱を生じさせるおそれ又は他国との信頼関係が損なわれるおそれがある内容を統合機動防衛力構築委員会で検討した事実の有無
 - オ 一部の情報を非開示とするのではなく、情報を詳らかにして対応することが最低限求められているとの考えに対する防衛省の見解

杉本和巳君（維新）

- (1) 河野外務大臣とシャナハン米国防長官代行との会談（6月4日）の内容
- (2) 中東外交
 - ア 中東の現状に対する認識
 - イ 河野外務大臣とザリーフ・イラン外務大臣との会談（5月16日）の内容
 - ウ 安倍総理のイラン訪問後、河野外務大臣がイランを訪問する可能性

- エ ホーシー派によるサウジアラビア原油施設に対するドローン攻撃についての外務省の事実認識及び評価
- オ カタールをめぐる現在の状況と我が国による仲介の可能性に対する河野外務大臣の見解
- カ ヨルダンとの連携に関する河野外務大臣の見解

玄葉光一郎君（社保）

- (1) 日米貿易交渉
 - ア 現在、日米間で話し合われている内容
 - イ 日米貿易交渉における「ウィン・ウィン」の意味
 - ウ 自動車等の工業製品の関税と農産物の関税とのパッケージで合意する可能性
 - エ 工業製品の関税で米側から得られるものがないまま、農産物の関税だけが下げられるという一方的な譲歩が行われるおそれ
 - オ 安倍総理がトランプ大統領に対して日本の選挙後における合意を提案したという事実の有無
- (2) 日露関係
 - ア 最近の日露外相会談における領土問題についての進展の有無
 - イ G20 大阪サミットで北方領土問題に関する大枠合意がなされる可能性
 - ウ 日露間の交渉は、日ソ共同宣言のみならず全ての諸合意・諸文書を踏まえて行われているかについての河野外務大臣の見解

井上一徳君（希望）

- (1) G20 大阪サミットの際に日韓首脳会談を行う必要性についての河野外務大臣の見解
- (2) 在日米海軍佐世保基地の日本人警備員が銃を携行したまま公道を通行した事案
 - ア 事実関係
 - イ 在日米軍の基地内における日本国法令の適用の有無
 - ウ 在日米軍基地の日本人警備員が銃を携行できる法的根拠
 - エ 再発防止策についての協議状況
- (3) 防衛関連企業に関するサイバー防衛のための取組状況